

登録コード	E2617900	開講年度	2026			
授業科目	剣道				担当教員	廣野 準一
英文授業名	Kendo				副担当	友川 幸
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限	対象学生
講義室	共通教育第2体育館 共通教育28講義室	授業形態	実技	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	中等教育現場において必要となる体育教科のうち、剣道の基礎的な専門知識と技能をもつことができるようになる
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	剣道の基本的な技能を身につけ、授業を安全かつ効果的に実施するための知識を得る
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	本授業は、中等教育現場における剣道授業を安全に運営し、効果的な授業を実施するために、必要な実技能力と知識を習得することを目的とする。 剣道は、他種目と比較して怪我の発生率が低い種目と言われている。しかし、用具の扱い方や授業の運営方法を誤ると、極めて危険である。また、武道の伝統や特殊な運動動作を伴う種目特性から、教示が難しい側面も有する。 この授業では、剣道が学習指導要領上で求められている内容や種目特性等に関する理論、用具の扱い方や伝統的な礼法・作法を学ぶ。さらに、様々な剣道の実技種目を体験するとともに、保健体育科教員として必要な実技能力を身につけることを目指す。実技能力の達成度合いを評価するために、スキルテストを実施する。授業時間外にもグループや個人での練習が必要となるため、積極的な参加姿勢が必要である					
(5)授業計画	以下の計画を基に、全体の学習進度によって調整する。 第1回：ガイダンス、礼法・作法、用具の扱い（剣道具の着脱と片付け、竹刀の保守管理） 第2回：武道遊び（基本動作の導入） 第3回：木刀による基本技稽古法①（礼法・作法、一本打ちの技、連続技） 第4回：木刀による基本技稽古法②（仕掛け技、応じ技） 第5回：スキルテスト1（木刀による基本技稽古法） 第6回：竹刀剣道1（攻撃と防御の基礎技能） 第7回：竹刀剣道2（審判法、個人試合） 第8回：竹刀剣道3（様々な技、攻防高速展開の体験、かけ引き） 第9回：竹刀剣道4（団体戦） 第10回：竹刀剣道で求められる基本技能（素振り、基本打ち） 第11回：竹刀剣道で求められる基本技能（切り返し） 第12回：スキルテスト2（竹刀剣道で求められる基本技能：礼法、素振り、切り返し、基本打ち）の説明と練習 第13回：スキルテスト2（竹刀剣道で求められる基本技能）、道場の使い方 第14回：剣道の理論と授業計画（安全管理や学習指導要領について学び、授業計画を立案） 第15回：剣道教示の実践 第15回の授業後、授業アンケートを実施する。					
(6)成績評価の方法	授業への取り組み方と理解度(60%)、スキルテストでの技能習得度(40%)を総合して評価する。なお、成績評価のためには、スキルテスト2回の実施とその他13回の授業中9回以上の取り組み確認が、最低限必要となる。詳しくは、(5)成績評価の基準を参照すること。					
(7)成績評価の基準	1)授業への取り組み方と理解度(60%) 毎回の授業で評価する。授業内で与えられた課題を理解し、真摯に取り組み、実行できているかについて、授業毎に4点満点で評価する。授業での取り組みを評価するため、欠席は0点、遅刻・早退は30%の減点とし、30分以上の遅刻・早退は欠席と同等に扱う。学習における協調性、リーダーシップ、積極的な参加姿勢については加点対象とする。 2)スキルテストでの技能習得度(40%) 授業内で行った内容の技能の習熟度について、木刀による基本技稽古法(20点)と竹刀剣道で求められる基本技能(20点)で評価する。それぞれのテストで、授業で説明した技術について理解し、実施しようとしている姿勢が観察できた場合は12点、特に教員を感心させるレベルであれば20点とし、習熟度・成長度に応じて得点をつける。 以上、2項目の得点を合計し、成績評価を行う。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。 授業は全ての回に出席することを前提とするが、「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席した場合を含めて、4回までは配慮を行う。ただし、スキルテストを受験しなかった場合と欠席回数が5回以上の場合は、単位認定を行わない。 なお、欠席回数					

(7)成績評価の基準	には「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」で補充を受けた授業回も含む。
(8)事前事後学習の内容	・ 剣道は特殊な動きや用具の使い方が多いため、この授業での事前事後学習は極めて重要です。 ・ 事前学習: eALPS等で発信する情報を閲覧して、理解・記憶する。理解できなかった点は質問できる準備をする。 ・ 事後学習: 授業時間内で身につけることができなかった知識や技能を習得する。必要に応じてグループでの学習や教員への質問を行う。 ・ この授業は45時間の学修を必要とする内容です。従って、15時間以上の時間外学習が必要となります。
(9)履修上の注意	1. 本授業の多くは連続性のある内容のため、理解・習得ができていないと次回の参加に支障が出ます。欠席日の内容は、必ず翌週までに理解・習得をしてから参加してください。 2. 授業開始後・終了前30分以上の遅刻・早退は、欠席と同等となるため注意してください。ただし、参加自体を妨げるものではありません。 3. 本授業は冬季にも実施するため、足を保護する足袋を使用します。着用は任意としますが、靴下や靴を着用しての受講は安全性の観点から認めません。 4. その他の剣道に関する必要な用具は大学で準備しますが、各自で用意してもかまいません。 5. 実技回は、運動に適した服装(ジャージ)にて裸足で（または配布した足袋を着用して）行います。竹刀剣道を行う回は、安全のため肘が隠れ、動作を妨げない服装としてください。開始前までに準備を終えた状態で集合してください。 6. 安全上、用具の取り扱いに注意してください。貸し出す用具は手入れをしているものの、経年劣化の可能性があります。不具合や違和感等を毎回授業前に確認し、見つけた場合は早期に廣野へ報告してください。 7. 経験者については、これまで自身が行ってきた剣道とは大きく学ぶ順序が異なる可能性が大きいです。その点を十分理解し、授業の内容に合わせてください。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則として授業前後の時間で対応し、その他はメールにて対応します。メール送付時は、新入生ガイドブックのメールの送り方を確認してから送ること。 【E-mail】 廣野準一 hirono@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	特になし
【参考文献】	全日本剣道連盟, 剣道指導要領, 初版8刷, 全日本剣道連盟, 2020, 2900円 全日本剣道連盟, 新中学校学習指導要領に準拠した安全で効果的な剣道授業の展開, 第4版, 全日本剣道連盟, 2020. https://www.kendo.or.jp/wp/wp-content/uploads/2022/06/kendojugyonotenkai_digest_04_all.pdf(全日本剣道連盟Webページにて2027年1月21日閲覧可)